	or y of Academic resources
Title	海外での指導経験を有する日本人サッカー指導者からみるコーチングについて
Sub Title	Coaching of Japanese soccer instructors with experience in foreign countries
Author	福士, 徳文(Fukushi, Norifumi)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	2021
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、海外での指導経験を有する日本人指導者を対象に質的研究法を実施し、日本の 育成システムおよび指導者養成の一助となるための基礎的資料を得ることであった。対象は、ス ペインでの指導経験を有し、現在日本のプロリーグのアカデミーで指導をする指導者1名であった。 調査方法は、深層のインタビュー法を用いて、自由回答的、かつ半構造的インタビューにより 行った。質問項目は、基幹的質問、追跡的質問、探索的質問の三種類の組み合わせにより構成し た。録音された音声データをテキストデータにし、KH Coderを用いて計量的に分析した。また、 出現パターンの似通った語を線で結んだネットワーク図(共起ネットワーク))を描き、それを元 に代表的な文章を抜粋した。KH Coderを用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果、 総出語数は9,106語で、そのうち3,105語が分析に使用された。内容を特徴付ける頻出語の出現回 数は1位が「思う」で58回、2位が「言う」で55回、3位が「サッカー」で48回であった。描かれ た共起ネットワークから、代表的な文章を抜粋すると、「日本の子は、納得していなくてもコー チが言ったことはやってみる。スペインの子は、トレーニングの意味を見出し、意味がないと思 ったらやらない。」などの語りがみられた。日本の指導現場での子どもの様子として、「大人の 機嫌をそこねない行動をする。大人の喜ぶような態度を取る。」といったことは以前から指摘さ れているが(永野 2007)、本研究においても同様の文章がみられたことは日本の指導者や日本の 教育制度が抱える重要な課題であると考えられる。 最後に、今年度は新型コロナウイルスの影響により研究計画を修正しながら進めてきたが、本研 努の中核である「現在海外で指導を行っている指導者への調査」や「実際のトレーニング現場の 視察」については、次年度以降の課題として継続して調査・分析を進めていきたい。 The purpose of this research is to conduct an interview survey with Japanese instructors who have experience in teaching in Europe, and to obtain basic materials to asist in developing a system and instructor training in Japan. The participant was one instructor who had experience in teaching in Spain and currently teaches at the Japanese Professional League Academy. The survey was conducted using open-ended and semi-structured in-depth interviews. The questionnaire items comprised three types: main questions, follow-up questions, and probes, based on previous study by Kitamura et al. (2005). The recorded response was transcribed and quantitatively analyzed using a text mining technique (KH Coder). In addition, we draw a network diagram (co-occurrence entwork) in which words with similar patterns are connected by lines, and we extracted the representative sentences based on themAs a result of performing reprocessing using KH Coder and performing simple counting of sentences, the total number of words was 9, 106 words, of which 3, 105 words were used in the analysis. The number of occurrences entwork diagram (co-occurrence heaven in a manner that does not detract from the co-occurrence network
Notes	申請種類:福澤基金研究補助
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-00002020- 0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2020年度 福澤基金研究補助研究成果実績報告書

2020								
研究代表者	所属	体育研究所	■ 職名	□	──補助額	1,000 ∓ P	千円	
	氏名	福士 徳文	氏名(英語)	Norifumi Fukushi				
		研	F究課題(日本語	語)				
海外での指導	経験を有するE	日本人サッカー指導者からみる	コーチングにつ	いて				
			研究課題(英訴	<u>,</u>)				
Coaching of Ja	panese soccer	r instructors with experience in	n foreign countr	ies				
			研究組織					
氏	名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
福士徳文(Nor	ifumi Fukushi)		体育研究所·専任講師					
須田芳正(Yoshimasa Suda) 体育研究所·教授								
			研究成果実績の	D概要				
本研究の目的	りは、海外での)指導経験を有する日本人指導			成システムおよ	び指導者	養成	
の一助となるた	めの基礎的資	資料を得ることであった。 対象は	は、スペインでの	指導経験を有し、現在日本の	プロリーグのアフ	カデミーで	指導	
		調査方法は、深層的インタビュ						
		り質問、探索的質問の三種類0						
		分析した。また、出現パターンの						
		と。KH Coder を用いて前処理を						
		。内容を特徴付ける頻出語のは						
		も起ネットワークから、代表的な						
		、トレーニングの意味を見出し、						
		:人の機嫌をそこねない行動を						
	/)、本研究にる	おいても同様の文章がみられ†	ことは日本の	宿得有や日本の 教育制度かれ	してる里安な課題	退じめると	汚え	
られる。	ᄨᄖᆕᅋᆋᆂ	ナウノリマの影響にといっつ言			しせっち 7 「 1日 カ	ちょうちょう	い治ナ	
		ナウイルスの影響により研究言 や「実際のトレーニング現場の						
うちている相当きたい。	「白への詞宜」	や「実际のトレーニング 現场の	祝奈」こういて	は、次牛皮以降の味超として精	胚税して詞直す	「別を進め) (()	
2/2010								
			記成果実績の概					
		is to conduct an interview su						
		to assist in developing a syste Spain and currently teaches a						
		structured in-depth interviews						
		l on previous study by Kitamu						
		technique (KH Coder). In addi						
		nected by lines, and we extrac						
		er and performing simple cour						
		e analysis. The number of oc						
		or "say" in the second place, a						
		anese child does what the coa						
		inted out that children at Japa						
		ude that makes adults happy"						
		nd the Japanese education sys						
		3.本	研究課題に関う	トる発表				
発表ネ (著者・	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)		発表学術誌名 著書発行所・講演学会)	学術誌3 (著書発行年)	送行年月 引・講演 ⁴	 手月)	
Fukushi,N.,Suda	a,Y.	Coaching of Japanese		Annual Congress of the	October 2020			
		instructors with experier	nce in Europe	an College of Sport Science				

Europe